

研究主題：持続可能な地域づくりと地域調査
～地域調査を地理学習に活かす～

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校・都立中等教育学校等で地理を担当する教員の団体である。主な活動として、年3回の授業研究と年3回の巡検、GIS研究協議会を実施している。コロナ禍の活動制限やオンライン開催を経て、令和4年度より再び対面での研修・集会を再開させた。新規採用者をはじめとする若手教員への支援、地理総合必履修化にともない新たに地理を受け持つようになった教員に対して、授業力の向上、教材の研究・共有化を目指した活動を継続して実施している。

令和7年度の実施計画

- 8月 全国地理教育研究会(長野大会)
- 10月 巡検(東京都の港湾施設と湾岸地区の開発)
授業研究
- 11月 巡検(多摩ニュータウンの開発と変遷)
授業研究
教職員研修センターとの連携研修
- 12月 授業研究
- 1月 巡検(葛飾区郷土と天文の博物館、他)
- 2月 GIS研究協議会
共通テスト問題講評会

II 研究主題の設定

令和4(2022)年度より必履修となった新科目「地理総合」には、学習指導要領の「内容の取扱い」に、「地域調査を実施し、生徒が適切にその方法を身に付けるように工夫する」ことが記載されている。しかし、地理特有の、フィールドワークを含む現地研究は、地理専門の教員が配置されていない、やってみたいが経験がなく分からない、などで敬遠されている学校も多い。そこで、生徒を外に連れ出す指導について、巡検指導の経験が豊富な教員から、伝達する機会を設け、指導方法や技能の獲得と経験につなげていきたい。

III 研究の方法

(1) 都地研行事の活用

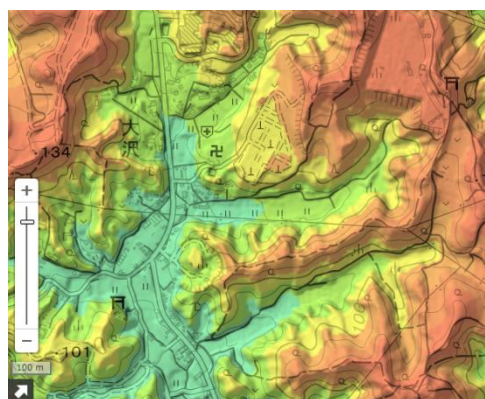
主題を、私たちの暮らす東京都の施設、身近な地域の探訪と調査、博物館や学芸員等との連携とし、生徒引率に必要な準備と実践を経験する。

(2) 教職員研修センターとの連携研修の活用

教職員研修センターの研修として、会場と端末の準備を委ね、受講者が水道橋界隈を実際に巡り、校外指導とGISの活用を学ぶ機会を設けた。

Ⅳ 内容と目的

自分が引率することを想定し、着眼点や事前に必要な準備や指導が何かを意識しながらの巡検を行った。東京都の施設見学については、港湾局に協力を依頼し、船上から東京港のふ頭や倉庫の視察を行った。津波や高潮対策となる防潮堤の存在や位置など普段は気づきにくい情報を得ることができたが、ここからどのような事後学習につなげられるかで成果は変わる。下船後は、新旧の倉庫を比較するなど視点やポイントの見つけ方、与え方などと事前に調べることの大切さを、湾岸地区の街歩きの中で学んだ。多摩ニュータウンの散策では、開発による地域の変遷だけでなく、桑や茶が多く生育するなど、現地を見て初めて気づけることが多かった。里山の再生を担う NPO 法人の方に案内を依頼したり、GIS を活用して地形を確認するなど技能や方法の習得が得られた。



管理者である NPO 法人の案内で巡った里山と地理院地図で作成した地形がわかる周辺図

Ⅴ 成果、課題

若手教員や他科目専攻の教員が地理を受け持つ学校が多い傾向を受け、地域調査として生徒を引率する前提としての意識を高める研修とした。博物館や関係機関、学芸員などとの連携、協力相手を持つことの優位性や体制づくり、方法が共有されたことは大きい。また、電子地図と現地での比較は、地形や土地利用の確認など、一人一台端末の活用でも有用であった。東京都教職員研修センターとの連携研修で「地域調査の実践」を依頼した。水道橋界限を実際に歩き、地理院地図で端末を活用する研修は、方法知の面で受講者から高い評価を得られた。科目の特性に合わせた内容に対し、管理運営を担っていただけたことに感謝するとともに、連携の在り方として理想的と思えた。

＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京都地理教育研究会	
代表者	所属	東京都立昭和高等学校	
	職 氏名	校長 清水 大介	
	連絡先	042 - 541 - 0222	
事務局	所属	東京都立青山高等学校	
	職 氏名	指導教諭 白川 和彦	
	連絡先	03 - 3404 - 7801	
団体ホームページ		URL	二次元コード